

## 長崎学 Web 学会 上野俊之丞のこと その1

### はじめに

上野俊之丞は日本写真界の開祖とも言われる上野彦馬の父になります。彦馬ほどの知名度はないかもしれませんが、彦馬について興味を持ったかたであれば、きっと父の俊之丞の名前を見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。今年（平成30年）、東京都写真美術館及び長崎歴史文化博物館において、

「写真発祥地の原風景／長崎」という企画展がありました。そこでも俊之丞を含めた上野家について紹介されていました。



上野彦馬肖像(長崎歴史文化博物館蔵)

上野彦馬は文久2年(1862)、幕末の長崎において撮影局を開き、長崎を訪れた多くの志士たちを撮影し、日本における写真の開祖とか日本初のプロカメラマンとか言われることがあります。ですが、実際は日本最初期のプロカメラマンの1人ではあっても、日本最初ではないことも指摘されています。同じ文久2年に写真業を営んだ日本人として、横浜の絵師であった下岡蓮杖がいるし、さらにその前年には江戸において鶴飼玉川という人物が開業したということです。しかし、彦馬と彼らとは決定的な違いがあります。それは経歴から見て彦馬は学問的裏付けを持っていた化学者であり、技術者であった点です。そこが評価されて、関連資料が公益社団法人日本化学会主催の「日本化学遺産」に認定されています。また、今までの上野彦馬研究のなかでも指摘されていることですが、彦馬の化学者の素養は、やはり父である上野俊之丞を抜きには語るできません（『写真の開祖 上野彦馬』1975年）。

ダゲレオタイプの写真技術の導入と上野俊之丞の関係についても、写真伝来に触れた書を紐解くと触れられています。天保12年(1841)に長崎に舶載されたダゲレオタイプのカメラを俊之丞が入手し、薩摩の島津家に献上したという説（この説の出典は明治35年4月6日から「東洋日の出新聞」に連載された記事が最初）が、かつてはありましたが、これについては現在、否定されています。俊之丞自身が書き残した手記が見つかり、それによると、天保14年(1843)に初めてダゲレオタイプカメラが渡来し、その時はそのまま差し返したが、再度嘉永元年(1848)に渡来し、ダゲレオタイプのカメラを俊之丞が写し取ったとい

うことが通説になっています（金丸重嶺著「日本写真渡来考」、日本写真学会誌 31(2), 1968年）。

それ以上のことはわかりませんが、そもそもなぜ上野俊之丞が薩摩藩にダゲレオタイプのカメラを献上したという誤った説が生まれたのか、俊之丞と薩摩藩はどんな関係があったのか。

ちなみに日本人が日本国内で日本人を撮影した写真で、現存する最古のものが安政4年(1857)薩摩藩主島津斉彬を撮影した写真だということです。早い段階で西洋技術の導入に熱心であった薩摩藩は写真技術の導入にも一役買っていました。ここでは日本における写真技術の導入と上野俊之丞、薩摩藩の関係について紹介します。また、長崎歴史文化博物館に収蔵される古賀十二郎著「雑録」（古賀 15/39）という手書き原稿のなかに、未だ活字になっていない部分を含む上野家に関する記述があり、多くはそこからの知見をもとにして彦馬につながる上野家の祖先について紹介します。

【長崎県文化振興課 山口保彦】